

知って当たり前 介護ガイド帳



上原喜光

認知症というのは怖い病気です。

だんだん記憶がなくなっていくのです。一緒に暮らす家族の顔も、介護してもらっている実の娘の肌触り、香り、声の記憶さえすべて真っ白になっていくのです。

先日、認知症治療ガイドラインが8年ぶりに改定されるというニュースが届きました。これまで国内でアルツハイマー型の薬は「アリセプト」のみでしたが、種類が増えそうです。

現在、認知症患者は約220万人。85歳以上の4人に1人は患うとされ、25年後には330万人に増えます。その中に「自分。が入っている可能性は、がんで死ぬ確率より高い」と考えてください。

私は、孫に祖父母の変わりざまを「見せる」ことが大事だと考えます。特に祖父母が地方に住んでいるな

ら、この正月に会いに行くべき。久しぶりの祖父母に「あんた誰？」なんて言われたら、孫はびっくりするでしょう。一緒に遊んでくれた、あの頃のおじいさん

の思い出が、いっぺんに吹き飛んでしまうかもしれません。それでも孫が祖父母を知れば、やさしい大人になると思います。

逆にあなたが祖父母なら、写真や電話ではない、生の思い出をたくさん残してやるべきです。いずれ記憶がなくなる病気です。まだ孫の顔と名前が分かるうちに会いに行きましょう。

認知症予防財団などが行っている無料の電話相談「認知症110番」(060120・654874)があります。休日を除く月曜、木曜の午前10時から午後3時まで相談を受け付けています。

(全国介護者支援協議会会長)

ボケた祖父母を孫に「見せる」べきか？

